

第3回定例会 決算特別委員会

外国人観光客への 安全対策は？

◆東京オリンピック・パラリンピックは7月24日から8月9日という最も暑い時期に開催されます。日本人でもこの時期には熱中症を心配します。この暑さに慣れていない外国からの来訪者の方々へ、熱中症対策が必要になってくると思われます。また、外国の方々が多く訪れるということは、日本には少ない感染症が持ち込まれるということも考えられます。さらに開催期間中、地震、台風などの大規模災害が発生するかもしれません。地域の住民に加え、多くの外国人観光客への対応が必要になり、混乱がさらに大きくなることは想像に難くありません。開催地のある自治体として、これら万が一の際の具体的な対策が重要ではないでしょうか。

久保委員 日本の真夏の暑さを体感したことのない多く外国人の方は、熱中症の心配をしているのではないのでしょうか。まず熱中症について外国人へどう注意喚起していくのか、また、新宿区での取り組みについてお聞かせください。

健康政策課長 外国人に特化した対策というのは特別講じてはいません。総合的には、熱中症の周知ということで、熱中症の注意などを書いたうちわの配布などを行っています。また、「まちかど避暑地」など、駆け込める涼しい場所を設けたりしています。

久保委員 外国人の方が持ち込んだと思われる感染症などの疾病には、どのような対策をとっているのですか。

保健予防課長 2014年のデング熱の発生の経験をもとに、新宿区蚊媒介感染症対策行動計画を作成、発生に備え

ています。また、エボラ出血熱、MERS、中東呼吸器感染症などについても、日ごろより関係医療機関と感染症指定医療機関などと連携し、対策を講じています。

久保委員 大規模災害の発生に備え、帰宅困難者対策の訓練を行ったと思いますが、今までの訓練の成果と課題や今後検討していることがあったらお聞かせください。

危機管理課長 平成14年に帰宅困難者の協議会を民間企業を中心に組織化し、官民を挙げた体制をとっています。行政では手が回らないというような実態ありますので、民間の力をなるべく借り、外国人も含めた避難誘導を民間の方々で行うといった体制をつくり、訓練を行っています。

久保委員 一時滞在施設をしっかりと周知するためにはチラシなどの配布があると思いますが、民間の協力がなければ、行政で帰宅困難者の対策を行うことは困難です。商店街の方々の協力を得て、帰宅困難者への対応をしていくということについてはどうお考えですか。

危機管理課長 不特定多数の来街者の方が多くいらっしゃる

第3回定例会 決算特別委員会 区有文化施設の 有効活用を！

◆新宿区には観光資源として、9月に開館した「漱石山房記念館」、「新宿区歴史博物館」をはじめ、3箇所の文化施設があります。これら施設はもろろん区民の税金を投入し、経営管理を行っています。新宿区の観光の名所とし、また、子どもたちへの文化遺産として引き継いでいくためにも、健全で安定した運営が重要ではないでしょうか。

久保委員 「林芙美子記念館」「漱石山房記念館」「新宿歴

史博物館」は入場料がありますが、「中村彝アトリ工記念館」「佐伯祐三アトリ工記念館」は無料です。この入場料の経緯を教えてください。

文化観光課長 「佐伯祐三アトリ工記念館」と「中村彝アトリ工記念館」に関しては他の記念館と異なり、両画家の現存する作品数が少ないため作品の常設展示を行っています。主にレプリカの展示を行っていますので入場料は無料となっています。

久保委員 来場者が利便を感じるような、例えばら館共通の記念入館券という発想で新宿観光振興協会のほうで取り組むようなことは検討したことはありませんか。

文化観光課長 新宿未来創造財団では、「友の会」というのを設置して集客等を行っています。今後、漱石山房記念館もできましたので、それも含めて共通の割引入場券とか、使いやすいような工夫をして入場者をふやそうと考えています。

区政情報課長 区としては、手元に欲しい情報が届くスマートフォン、タブレット専用のアプリが有効だと考えます。トイレの場所を知らせるアプリについては、今の時点では導入は考えていませんが、積極的に検討していきます。

いますので、平時の段階でどういう行動をとるかということとを周知していくことが重要だと思えます。新たな取り組みとして、防災ウィークを設け、新宿駅ではなく避難場所へ避難してくださいというポスターを掲示し、日ごろから来街者の方たちに防災直後の基本的な行動を案内していくということもはじめていきたいと考えています。